

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスささゆり		
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日	～	令和7年 1月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日	～	令和7年 1月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 広い施設を活かすことで、児童にとってより楽しく、開放的で安心できる環境が提供できる 様々な活動を同時に行うことが可能で、運動や体操、創作活動、学習など、異なる目的のエリアを設けられ、混雑による衝突や怪我のリスクを軽減し、安全にのびのびと過ごせる 個別支援を行うためのエリアやクールダウンできる空間もあり、児童の状況やニーズに応じて柔軟な対応ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 児童との関わりについて、以下のことを大切にしている 一人ひとりの障がいや発達段階に応じた特性や個性を尊重する 児童が感じている喜び、不安、戸惑い等を受け止め、共感を持って支援する 児童のペース（理解や行動のスピード）に合わせ、焦らせずに支援する 児童の意見や希望を聞き、自分で選び、自分の意思を表現する経験や選択の調整を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、次の事項に取り組み活動の充実化を図る 進んで発信していく 目新しい活動ばかりではなく慣れた活動にアレンジを加えていく
2	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日、祝日も営業することで安心・安全な居場所の提供、保護者の負担の軽減、生活リズムの安定、通常より長時間の活動や特別なイベントなど活動機会の拡大、地域との連携や社会性・スキルの向上につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫したルールや態度で接し、児童が安心して頼れる存在になるために、普段から誠実な対応を心がける 児童の成長と一緒に喜び、挑戦する姿勢の中で成功体験を積み重ねられるよう支援する 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、日頃の様子や支援内容など利用報告書を作成し、定期的に相談支援事業所や学校へ伝えることで連携や信頼関係の強化を目指す
3	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動において、低学年グループと高学年グループに分けることで、年齢や発達段階に応じた適切な支援（集中力、円滑なコミュニケーション、競争や比較の緩和、安全性の向上、自信の持ちやすい環境、自立心や達成感を育む機会など）を意識した活動を行い、児童にとって充実した体験や経験へとつながっている 	<ul style="list-style-type: none"> 児童がこれからの活動や一日の流れを理解し、予測しながら、安心して活動に参加できるように以下のように環境を整えている 部屋ごとの役割や用途の明確化（サインやラベル） 日課のルーティン化 視覚的なスケジュールボードの活用（始まりや終りの時間、活動内容の明確化、時にはタイマーを使用） 活動ごとの説明（ルールや手順など） 事前告知や事前説明（次は何をするのか、どこで何をするか、どんなことが起こるのか、今何をする時か等） 切り替えができるよう段階的に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民とのコミュニケーションを通じて、挨拶や礼儀などの社会的スキルの習得 地域の文化や行事を体験することで、児童が新しい興味や関心を持つきっかけを作る 地域の公共施設（図書館、公民館、体育館など）を活用して活動の幅を広げる
4	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い遊具を提供することで、発達段階や興味関心が異なる児童に対して、楽しく過ごせる環境があり、自分の「得意なこと」や「興味」を発見するきっかけや自己肯定感を育む機会となっている 運動遊具（トランポリン、跳び箱、平均台など）は、体幹やバランス感覚、筋力を鍛えるとともに、感覚統合支援にも有効 創作遊具（ブロック、パズル、ラキューなど）を通して、創造力や問題解決能力を育て、自由に発想を広げながら遊べる環境は、自己表現の場としても効果的 グループで遊ぶ遊具（ボードゲーム、カードゲームなど）を使うことで、コミュニケーションや協力を促し、順番を待つ、相手を思いやる、役割を分担するといった社会性の発達に効果的 	<ul style="list-style-type: none"> 活動やイベントについて、土曜日や祝日、長期休暇等の学休日には普段できない活動やイベントを企画し、児童の発達や特性に配慮しながら、安全で楽しく、学びや成長につながる内容を職員みんなで以下のポイントを踏まえ話し合っている 児童の特性やニーズ（保護者のニーズを含む） 季節や文化、行事を取り入れる 地域交流や社会見学、保護者参加など 安全面の配慮として、場所や使用するもの等の環境 ねらいや目標設定 集団活動に参加しにくい児童への対応 	
5	<ul style="list-style-type: none"> HUG成長支援療育システムを導入し、保護者にとって「見える化」「効率化」「連携強化」を図っている 特に活動状況や支援内容をデジタル化し個別支援計画やモニタリング表の共有、サービス提供記録には具体的な達成目標に対する評価、活動風景の写真がいつでもどこでも見えるようになっていて連携、情報共有、安心感、時間と手間の軽減へとつながっている 「GO!GO! ささゆり（通信）」を通して、児童の活動の成果や努力を紹介したり、保護者に有益、励みとなる情報を提供している 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が日常生活や社会生活を自分の力で送れるようになることを目指して以下のように支援している 日常生活動作（特に身だしなみ、食事、トイレ等） 社会でのマナーや他者との関わり方などの社会生活スキル 自分で考え、決める等の自己決定の機会（活動の参加、宿題への取り組み、おやつ、活動内容、BGM、体操など） 	

6	<ul style="list-style-type: none"> 組織について、職員の年齢層の幅が厚く、有資格者が多い 報連相について、円滑に情報を共有し、問題解決や意思決定をスムーズに行えることを目指している 気軽に話し合える雰囲気がある 役割や責任範囲を明確にしている 困りや疑問を抱え込まず、必要なときに相談できる 全体での進捗確認や課題の共有を目的とした定期的な会議や振り返りの時間を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携について、仕事や家庭の都合に配慮し、またその内容や状況、タイミングや緊急性などによって柔軟に対応できるよう連絡帳、LINE、電話、文書など様々なツールを使用している 	
	<ul style="list-style-type: none"> 名阪出入口に近いことで、場所が分かりやすい、送迎だけでなく緊急時対応の利便性、移動時間の短縮によりイベントや活動の拡大につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善について、方法など職員間で情報共有し、連携を取りながら行っている 定期的に管理者との面談を実施している 定期的に施設内研修を行うことで、共通理解を深める、専門的な知識とともに実践的なスキルの習得、問題解決能力の向上、チームワークの強化、支援の質の向上を目指した体制が整っている 	
7			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務について <ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕がないと感じることがある 報連相について <ul style="list-style-type: none"> 朝礼や終礼の時間が取れず、報告や連携、情報共有ができない時がある 打ち合わせは行っているが、振り返りができていない時がある 苦情やヒヤリハットの振り返りにおいて、具体的な再発防止への支援や環境作りに至らないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に対する意識が低い 業務内容が多い 予定や状況が常に変わる 時間に余裕がないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> 業務のスリム化を行う(個々で無駄がないか考える) 業務における時間配分(設定)を検討する みんなで時間を意識する 職員会議を定期的に行う(議題を決め、みんなで話し合う機会を作る) 予め様々な状況について検討しておく イベント前の朝礼時にスケジュールの細かな時間、各職員の担当や役割を具体的に伝えることを徹底する
2	施設について <ul style="list-style-type: none"> 手洗い場の蛇口の締まりが悪い 送迎車両エアコンのつまみが破損している 階段下のトイレが暗いことで児童が入りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 施設や車両が古い 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い場の修繕 車両の修善 トイレの照明の取り換え
3	支援について <ul style="list-style-type: none"> 予定と違った状況への対応(臨機応変な対応)が難しい HUGを見てもらえない(活用できていない) 保護者から相談されにくい、話しにくいかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> リスク等のイメージが持てていない 保護者の忙しさ? 支援者の顔が見えにくい? 	<ul style="list-style-type: none"> リスクに対する検討会議を行う 事例検討会を定期的に行う HUGを診てもらえるよう呼びかける 各職員が話しやすい雰囲気を心掛ける